

編集後記

7月に入って勢いを増した新型コロナウイルス感染症の第7波はとどまるところを知らず、毎日のように新規感染者数の記録が更新され（8月5日現在）、医療機関のひっ迫が報道されている。私が勤務する病院でも職員や患者さんの感染、濃厚接触者がイタチごっこのように発生し、通常の診療体制が維持できない部署が出てきている。第6波が過ぎ去ったわずか数カ月前には社会全体に「収束した」ようなムードが漂ったが、後方視的に見ると楽観的な見方に過ぎず、単に変異の谷間であったようだ。まだまだ手強い。

さて、今年の増大号のテーマは「骨端症」である。佐賀整肢学園こども発達医療センターの和田晃房先生にご企画いただいた。「骨端症の現状と実際」のテーマのもとに総論、各論、最新の治療まで全17編、いずれも力作である。骨端症の名称の特徴の1つとして、人名を冠した病名が多いことが挙げられる。星野裕信先生の総論では、日常診療で遭遇することの多いOsgood-Schlatter病やSever病から、頻度の低い、比

較的珍しいものまで30近い冠名疾患が紹介されている。また、一口に骨端症と言っても、様々な病態が含まれる。Perthes病やKöhler病は骨端の無腐性壊死であることが示されており、Freiberg病は内軟骨骨化異常と考えられている。また、Osgood-Schlatter病は関節外における腱・靱帯付着部の骨端症と位置付けられている。一方、骨端－骨幹端間に存在する成長軟骨板は力学的に脆弱なため、成長期のスポーツ障害や裂離骨折の原因としても重要である。積極的な治療が必要となるKienböck病、Perthes病、Blount病については最近の治療法についても詳述していただいている。

本誌で骨端症をまとめて取り上げたのは初めてであり、本増大号を通読することによって、改めて骨端症について知識を整理することができた。ご執筆いただいた17名の先生方に感謝するとともに、皆様の明日の日常診療に役立つことを祈念する。

（中島康晴）

「整形・災害外科」第65巻 第10号（9月増大号） 2022年9月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 4,950 円（本体 4,500 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 44,660 円（本体 40,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。